



イベント会場の他、スーパーの店頭でも活動しています

NPO法人 フードバンク山口
代表 今村主税さん
メール foodbank.ymg@gmail.com
ブログ http://blog.canpan.info/fbyamaguchi/

「もったいない」を「ありがとう」に変える食品支援

「食品ロスの削減」と「生活困窮者の支援」、「トマトの販路開拓」と「地域活性化」など、2つの社会的課題の解決を目指す活動を行っている。NPO法人フードバンク山口の今村主税さんにお話を伺いました。

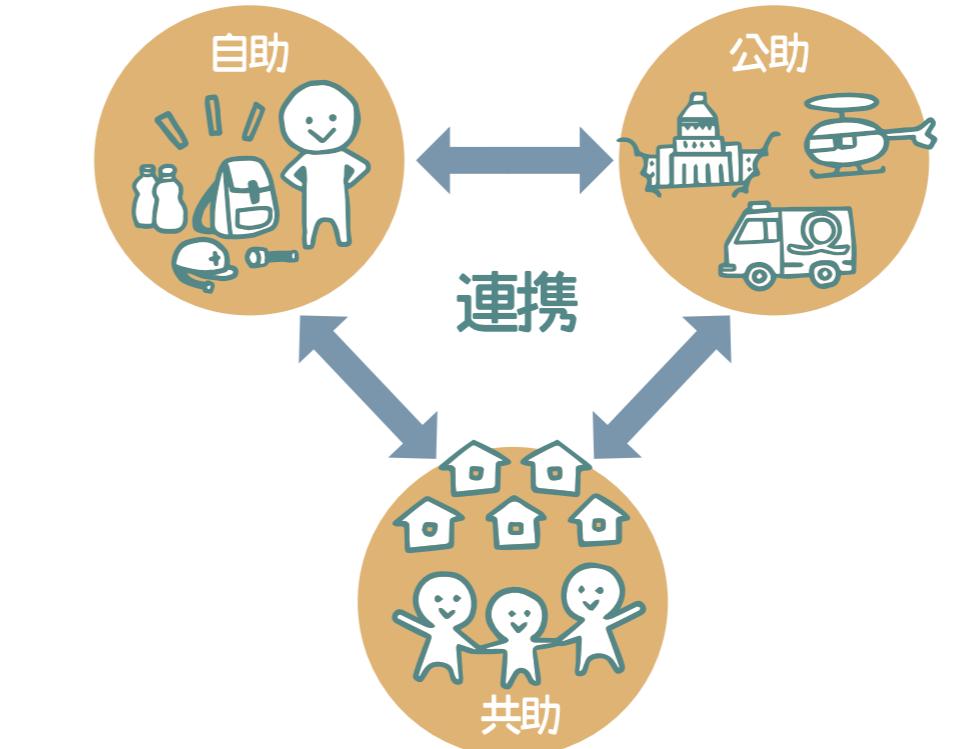
フードバンク山口は、家庭で余っている食べ物や、食品関連企業から、中身には問題ないが市場に出せない食品を提供してもらい、それらを集めて寄付するフードドライブを行っています。私たちが暮らす山口でも、食べきれない食品を提供することで助けられる人がいるのです。

私たち市民記者も、こうしてお話を伺うまでフードバンクのことを知りません。そこで、フードドライブに参加してみようと思います。もつといろいろな人にフードバンクを知ってもらうことで、支援の幅も広がっていくのではないかでしょうか。

日本では、食べられるにもかかわらず廃棄されている食品が年間約620万トンあるといわれており、これは日本人一人が平均して毎日おにぎり一個を捨てている計算になります。フードバンク山口では、この「もったいない」を「ありがとう」に変える活動を行っています。私たちが暮らす山口でも、食べきれない食品を提供することで助けられる人がいるのです。

私たち市民記者も、こうしてお話を伺うまでフードバンクのことを知りません。そこで、フードドライブに参加してみようと思います。もつといろいろな人にフードバンクを知ってもらうことで、支援の幅も広がっていくのではないかでしょうか。

防災と地域のつながりについて考え方



防災の基本は、一人ひとりが自ら取り組む「自助」です。災害に備え、自分や家族の身を守るために住居の安全対策をしておくことや、水や食料などの備えをしておくことが必要です。災害発生時は行政や消防、自衛隊などからの公的支援「公助」が行われますが、全ての地域へ届くまでに時間差が生じることがあります。そんな時、地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」が欠かせません。

被災すると、今まで当たり前でできていたことができなくなり、生活も一変します。誰もが不安を覚える中で、家族のように自分を気にかけてくれる人がいるという安心感は、日頃からの住民同士のコミュニケーションによって得られるのではないでしょうか。それは、被害を最小限に防ぐ「減災」にもつながります。防災の一番のカギは地域のつながりなのかもしれません。それが、大災害のためなく、日々の中で起こる小さな困りごとの助けにもなるでしょう。地域の防災力を高め、安心を備えていきたいですね。



地域ぐるみで防災力 UP↑in 佐山

佐山地区自主防災会が発足したのは2008年5月。佐山地区で死者44名が出た1942（昭和17）年8月の周防灘台風で被災にあつた、当時の自治連合会長の実現した同会の特徴は、まさに「自防災」。行政の力に頼りすぎることなく、地域住民たち自らで構成された災害時本部体制が確立されました。つまり、災害が起きた時に行政の指示を待たずとも迅速に対応ができるよう、独立した組織体制が整えられています。市内外から広く視察に来られるなど、自主防災の先進地域になりました。

防災を専門に活動するNPO法人の指導のもと、実現した同会の特徴は、まさに「自防災」。行政の力に頼りすぎることなく、地域住民たち自らで構成された災害時本部体制が確立されました。つまり、災害が起きた時に行政の指示を待たずとも迅速に対応ができるよう、独立した組織体制が整えられています。市内外から広く視察に来られるなど、自主防災の先進地域になりました。

防災組織が確立された佐山地区自主防災会の方々にお話を聞きしました。

私たちええやん取材班が防災に関する聞き込みを続ける中、いろいろなところから「防災といえば佐山じやろう」という声が聞こえました。佐山にはいったいどんな防災組織が確立されているのか？ 佐山地区自主防災会の方々にお話を聞きしました。



これまでの取り組みとしては、2年に一度行う佐山地区全体での防災訓練はもちろんです。また、備蓄用の土蔵づくりや防災倉庫の設置に加え、災害時専用の無線LANシステムを構築するなど、先進的な取り組みにも力を入れています。特に、子どもたちに対しては学童期から防災意識を高めるため、小学校4年生を対象に防災体験学習を毎年実施。防災紙芝居を鑑賞したり、視聴覚に障害がある人とコミュニケーションの取り方を学んだり、竹竿と毛布で担架を作つて土蔵をぶどううような防災を意識したユニークな競技を取り入れ、楽しく身に付く工夫が施されています。

同会事務局長の上野知一さんは、「まずは地域のみなさんに防災への関心を持つもらうことに重点を置いています。いろんな知識が年々高まってきているおかげか、2009年7月の水害の時は避難や誘導が非常にスムーズだったとか」。

組みにより、日頃から一人ひとりの防災意識が年々高まってきているおかげか、2009年7月の水害の時は避難や誘導が非常にスムーズだったとか。

柔軟に対応できる組織体制や地道な取り組みにより、日頃から一人ひとりの防災意識が年々高まってきているおかげか、2009年7月の水害の時は避難や誘導が非常にスムーズだったとか。

同会事務局長の上野知一さんは、「まずは地域のみなさんに防災への関心を持つもらうことに重点を置いています。いろんな知識が年々高まってきているおかげか、2009年7月の水害の時は避難や誘導が非常にスムーズだったとか」。

組みにより、日頃から一人ひとりの防災意識が年々高まってきているおかげか、2009年7月の水害の時は避難や誘導が非常にスムーズだったとか。

柔軟に対応できる組織体制や地道な取り組みにより、日頃から一人ひとりの防災意識が年々高まってきているおかげか、2009年7月の水害の時は避難や誘導が非常にスムーズだったとか。

同会事務局長の上野知一さんは、「まずは地域のみなさんに防災への関心を持つもらうことに重点を置いています。いろんな知識が年々高まってきているおかげか、2009年7月の水害の時は避難や誘導が非常にスムーズだったとか」。

組みにより、日頃から一人ひとりの防災意識が年々高まってきているおかげか、2009年7月の水害の時は避難や誘導が非常にスムーズだったとか。

柔軟に対応できる組織体制や地道な取り組みにより、日頃から一人ひとりの防災意識が年々高まってきているおかげか、2009年7月の水害の時は避難や誘導が非常にスムーズだったとか。